

**Analisis Kesalahan Mahasiswa Tingkat II Terhadap Penggunaan Juju Hyougen
(ageru, kureru, dan morau) berdasarkan *Mastery Learning***
**(Studi Kasus Pada Kelompok Mahasiswa kelas 4C Departemen Pendidikan Bahasa Jepang
FPBS UPI Tahun Ajaran 2014/2015)**

Addinda Nurillah Sari

1005981

ABSTRAK

Sulitnya mahasiswa dalam memahami pembelajaran juju hyougen menyebabkan banyaknya terjadi kesalahan sehingga prestasi belajar pun akan menurun. Penelitian ini bertujuan untuk mengetahui sejauh mana kesalahan yang masih dilakukan mahasiswa karena kurangnya pemahaman dalam penggunaan kata kerja juju hyougen secara tepat. Penelitian ini merupakan penelitian tentang analisis kesalahan mengenai penggunaan kata kerja juju hyougen yang diujicobakan pada kelompok mahasiswa tingkat II Departemen Pendidikan Bahasa Jepang FPBS UPI. Pada penelitian ini penulis melakukan pengumpulan data melalui tes berupa uji instrumen dan non tes berupa anget untuk mendapatkan informasi mengenai tingkat kesalahan mahasiswa dengan merujuk penilaian berdasarkan pada *mastery learning* (ketuntasan belajar). Penelitian ini menggunakan metode campuran (*mixed method*) yaitu metode kuantitatif dan metode deskriptif, yaitu menggambarkan kesalahan mahasiswa dengan menjabarkannya menggunakan angka-angka baik berupa grafik, tabel, maupun frekuensi prosentase. Objek penelitian ini adalah mahasiswa tingkat II kelas 4C tahun akademik 2014/2015 Departemen Pendidikan Bahasa Jepang FPBS UPI dengan jumlah sampel sebanyak 25 orang. Penelitian ini dilaksanakan dengan memberikan uji instrumen dan angket kepada 25 responden dalam 1 kelas dengan waktu pengerjaan selama 60 menit. Berdasarkan data tersebut diperoleh hasil sebanyak 52% mendapat nilai dari kurang baik yaitu 26-57, dan 48% mendapat nilai dengan range cukup 58-85. Hasil angket menunjukkan ada beberapa faktor penyebab terjadinya kesalahan dalam penggunaan kata kerja juju hyougen, diantaranya kurangnya minat dalam belajar, kurangnya motivasi diri untuk mengatasi kesulitan dalam belajar, dan kurangnya ketertarikan selama pembelajaran di dalam kelas.

Kata Kunci : juju hyougen, kata kerja, analisis kesalahan, pembelajar

Addinda Nurillah Sari, 2015

**ANALISIS KESALAHAN MAHASISWA TINGKAT II TERHADAP PENGGUNAAN JUJU HYOUGEN
(AGERU, KURERU, DAN MORAU) BERDASARKAN MASTERY LEARNING**

Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

Analysis of The Error for Student Level 2 Against Using Juju Hyougen (ageru, kureru, dan morau) with Based on Mastery Learning

(A Case Study Towards 4rd class Students of Department of Japanese Language Education, Faculty of Language and Literature Education, 2014/2015)

Addinda Nurillah Sari

1005981

ABSTRACT

The difficulty's students in understanding of learning *juju hyougen* led to occur many errors so the learning achievement of study will decline. The purpose of this research is to determine the extent of student error because the lack of understanding on using the verbs of *juju hyougen* appropriately. This study is a research on the analysis of the error about the use of verbs *juju hyougen* that trials to the college student level II of Departemen of Japanese Language Education Faculty of Language and Literalure Education Indonesia University of Eduaction. In the research the authors conducted to collection data through the tes form instrument's test and non test form questionnaires to obtain the information on the rate of student's error with reference to an assessment based on mastery learning. This research used mxd methods,is namely quantitative methods and descriptive methods that's describe the students errors with reduce it using either frecueny graph or table percentation. Object of this research is the college students is 25 people on class 4C of Student Level II of Departemen of Japanese Language Education Faculty of Language and Literalure Education Indonesia University of Eduaction on academic year 2014/2015. This research carried out by providing test instruments and questionnaires to 25 sample with a time of 60 minutes. Based data obtained the result as much as 52% scored in low 26-57 and 48% get good enough scored with range of 58-85. The questionnaires show the result there are the several factor that's cause the error in the use of the verbs *juju hyougen* including lack of interest in learning, self motivation to overcome difficulties of learning, and interest for learning in the classroom.

Keywords : *juju hyougen*, verb, analisys of error, learner

Addinda Nurillah Sari, 2015

ANALISIS KESALAHAN MAHASISWA TINGKAT II TERHADAP PENGGUNAAN JUJU HYOUGEN (AGERU, KURERU, DAN MORAU) BERDASARKAN MASTERY LEARNING

Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

授受表現（～てあげる～てくれる～てもらう）ベース習得学習の使用につ
いての二年生目の学生のごよう分析
「4クラス日本語教育科のFPBSUPIの学生教え2014-2015
のグループのケーススタディ」

アデインダ・ヌリラー・サリ
1005981

要旨

困難な授受表現を学習する大学生は御用と理解があまりできないので、多くの大学生は「あげる、くれる、もらう」と言うエラーにして、能力も下がるのである。この研究の目的は御用と理解があまりできない大学生はどのぐらいか、知りたいのである。この研究は教育大学日本語学科で学習者の二年生は動詞の授受表現を学習する御用分析である。

データと情報を収集するためには、アンケートやテストや無テストで *MASTERY LEARNING* による二年生の大学生の「あげる、くれる、もらう」授受表現における誤用分析するのである。研究方法は *mixed method* 法であり、クアンティタティブな説明分析を使用して、二年生の大学生の間違った授受表現の授業結果を研究するのである。研究の対象は日本語の二年生の大学生の4Cクラス2014/2015年度である。授受表現を学習した二十五人の答者によると、60分のテストで成績の26~57点をももらった大学生は十三人及び52%（パーセント）で、成績の58~85点をももらった大学生は八人及び32%（パーセント）である

キーワード : 授受表現、動詞、エラー分析、学習

A. はじめに

授受表現と言う動詞の使用を見ると、「あげる、くれる、もらう」と言う動詞の意味は誰かもらう人、あげる人、くれる人かと良く関係がある。一番目の人から二・三番目の人へ、三番目の人から三番目の人へある一つの物を移動すると、それは「あげる」と言う動詞を使用しなければならないのである。その反対は、インドネシア語の「くれる」および「もらう」動詞は他動詞の (*diberi atau menerima*) という意味になって、三番目の人から二・一番目の人へある一つの物を移動すると、それは「くれる、もらう」と言う動詞を使用しなければならないのである。

その上の説明したような「あげる、くれる、もらう」と言う動詞の使い方が多くの学習者は会話をしたり、文を作ったりする時にも間違っているのがあったので、筆者は「*MASTERY LEARNING* による二年生の大学生の間違い「あげる、くれる、もらう」授受表現における対照分析」と言うタイトルを研究するのである。

B. 研究の目的

本研究の目的は次のようである。

1. 授受表現問題の質問に答えられる二年生の大学生はいくつぐらい出来るか、知りたいのである。
2. 授受表現の授業のなかで二年生の大学生はどのぐらい成功できるか、知りたいのである。
3. 授受表現の違う使い方に対して二年生の大学生の困難な原因はどのぐらいあるのか、知りたいのである。

C. 研究の方法

この研究の方法はクアンティタティブな説明分析を使用して、二年生の大学生の間違った授受表現の授業結果を研究するのである。そう言う結果を図るためには説明見学方法と合っているのである。

情報とデータの結果分析を「数字」と言う形で簡単に説明するように述べるのである。

D. データ分析

必要な情報とデータを集めるために、筆者は研究の色々な道具を作っておくのである。例えば、

a. テスト

このテストを作った目的は大学生の二年生の違った「あげる、くれる、もらう」と言う授受表現の使い方を評価するためにテストの問題に答えさせるのである。そのテストではっきり的な二年生の大学生能力データと情報でどのぐらい正しく答えられるか必ず分かるはずだと思ったのである。授受表現の問題は六つの(A,B,C,D,E,F)部分を分けたのである。

b. アンケート

この研究のアンケートの役割は四学期の間に授受表現を学習した二年生の大学生が対照及びサンプルとしてどのぐらい間違えるか、色々な質問でデータと情報を収集するためである。

E. 研究の結果

授受表現を学習した二十五人の答者によると、テストで成績の 75 点以上をもらった大学生は四人及び、成績の 26~57 点をもらった大学生は十三人及び 52 パーセントで、成績の 58~85 点をもらった大学生は八人及び 48 パーセントである。

この研究の中でデータと言うのは授受表現を誤用した大学生としてエ

Addinda Nurillah Sari, 2015

ANALISIS KESALAHAN MAHASISWA TINGKAT II TERHADAP PENGGUNAAN JUJU HYOUGEN (AGERU, KURERU, DAN MORAU) BERDASARKAN MASTERY LEARNING

Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

ラーである。エラーと言う事は学習者の理解が出来なかったのである。ですから、この学者の誤用は(*SLIP OF THE TONGUE*)のような方法ではないが、大学生は授受表現の「あげる、くれる、もらう」や文型を使用するのが分からなかったので、誤用及びエラーもよくするのである。そのほかに、知識が足りないし、能力も足りないのであると言う原因である。

収集したデータによると、25人のエラー誤用はAとE部分の問題で、部分の問題は(*MISTAKE*)と言う誤用は理解が出来ないとは言えないが、疲れ過ぎたのである。実は、(*MISTAKE*)と言う意味は誤用と失敗の推量に対して普段なシステムを使用することも間違っただのである。それは学習者は普段な言葉や文型などを使用するのが分かったと言う意味である。

アンケートのデータによると、その上に説明したような研究の結果は筆者がその誤用の原因をしていたのである。適当な授受表現を使用する誤用の大学生がまだ多いので、問題に答えるのは理解が出来ないのである。

そのほかの原因は本や教科書や教材などを持たない大学生がまだ多いのである。それで、大学生は教室で先生に説明された授受表現を学習したのは結構だと思ったからである。大学生はほかの所であまり学習なくて、教室で先生と学習も足りないの、誤用するのが多いのである。

御用の問題をあるいくつかの解決である。例えば、

- a. 学習者に先生のアプローチが必要である
- b. 簡単な理解ができ、面白い教材を選ぶのである。
- c. バリエーションの教える方法で大学生は簡単に理解出来るのである。
- d. 大学生に練習をさせるのは必要である。
- e. 先生はこの教材で大学生を問いと答えの練習させるのである。

- f. 教室で 大学生を興味もたせるアクティブの授受表現を学習するのである。
- g. 先生は特別なモチベーションで授受表現の文型を学習するためである。
- h. 大学生の学習し方を見るのが必要で、特に少し誤用があったら、すぐ解決ができるのである。
- i. 大学生の授受表現能力を評価して、成績をしているのである。

F. 終わりに

この研究の結果によると、教育大学日本語学科の4Cの二年性のサンプルとして証明されたエラーと言うパーセントはまだ高いである。

そのために、大学生の興味を持たせるのは必要で、それは能力を高めるようになっているのである。そして、いい方学習で日本語を得るに授受表現の学習も出来れば、大学生のいい気持ちを感じさせるようになっているのである。

実際に、学習中で新しい教え方で授受表現を学習している時に、大学生は簡単に理解ができ、分かりやすく考えるのである。

その次の研究はもし同じ研究をしたら、もっとたくさんサンプルを使って、研究の結果ももっと「いい」と思っているのである。